

A 「孔子廟堂碑」



B 「昭仁寺碑」(639)



C 「裴鏡臣碑」(637)



D 「張琮碑」(639)



E 「于孝顯碑」(640)



F 「歐志玄碑」(642)



G 「孔穎達碑」(648)



「書の古典観照」③

図版③ 孔穎達碑（集字）



図版② 裴鏡民碑（部分）



『孔子廟堂碑』を学ぶには、唐の原石部分の点画、筆勢、文字構成の特徴を学ぶことが重要である。そのためには図版をやや拡大して見やすくすると便利である。また『孔子廟堂碑』と同じ時代に建てられた碑刻に目を向けると、書法面でよく似た特徴の書を探し出すことが出来る。右頁に示した図版は、同時代の碑刻の書との対照である。上段からAは、『孔子廟堂碑』、Bは古くから虞世南の書と言い伝えられる『昭仁寺碑』(630)、Cは殷令名の『裴鏡民碑』(637)、Dは『張琮碑』(639)、Eは『于孝顯碑』(640)、Fは『段志玄碑』(642)、Gは『孔穎達碑』(648)である。これらのBからGの碑は、書のお手本としては余り知られていないが、共に同時代の書である。このように並べて字画のよく似た文字を比較すると、筆勢や起筆、終筆、送筆などがそれぞれ微妙に異なり、各碑の特徴を生み出しているが、書風面では似た特徴を備えている。Cの『裴鏡民碑』は文字の大きさが孔子廟堂碑より大きく、筆勢等を的確に確認できる。またGの『孔穎達碑』は、稍縱長の文字構成で穏やかな筆勢であり、孔子廟堂碑の気品に通じるところがある。Bの『昭仁寺碑』(630)、Cの『裴鏡民碑』(637)、Gの『孔穎達碑』(648)等は、一玄社の書蹟名目叢刊に収録され、碑文の全体を見ることが出来る。

伊藤滋
(書斎名・木鶴室)

書道芸術院

平成の群像 (2018)



林

和
鳳

「出会い」

私と書とのきっかけは、高崎女子高校で恩師山本聿水先生とめぐり会ったことでした。生徒の前でお手本を書かれる先生の筆先は、力強く、時にしなやかで、まるでつま先で踊っているかのように自在に動くのです。その手元を見つめ、どうしたらあのようなすばらしい線が引けるのかと強く惹かれました。

高校時代は、書道部の部室で、ゆっくり時間をかけて墨を磨り、筆にたっぷり墨を含ませて一気に書く、無心になれる充実した時間でした。

その頃初めて目にした師の墨象作品は、墨のにじみが美しい幻想的な作品で、この様な書の世界があるのだと衝撃を受けました。

やがて、私も墨象部門に作品を発表するようになりますが、初めの頃は好きな詩文を濃墨や淡墨で墨色を工夫し、自由に楽しく書いていました。次第に、新しい書への疑問や悩みが、生まれ、まさに暗中模索といった時代が続きました。

支えられ、励まされて今の私が在ります。

長い道のりを経て、今の私は、創作することを楽しんでいます。この白い紙の小宇宙に、私という人間をさらけ出し、何の束縛もなく、自由に想いをぶつけることが出来る。甲骨文字や、自然の風景に発想のヒントを得て筆をとると、書くことのよろこびに浸ることが出来ます。年を重ねても、書きたいという想いがある限り前に進めそうな気がします。

山本先生が昭和26年に創立した「白玄会」は、師亡きあとも、その書道理念を継承し、活動しています。各種展覧会への出品や白玄会書展の開催、古典研究会などで役員が交代で勤めます。法帖の資料作成、揮毫、添削、など講師役が回ってくると、勉強のよい機会と考え、準備します。研修旅行、会報「書塔」の発行なども会員の皆様と協力し合って継続しています。

書を愛する同志といえる人達に

前衛書（四）

大井 美津江

先人の教え(2)

前回は、書の先人である大沢雅休先生に触れましたが、雅休先生の最初の子弟であられた中島邑水先生の教えも忘れられません。

邑水先生は、天来先生の揮毫される



大井美津江書

「戊」

風貌の偉大さと靈妙な境地に感動され、生涯を書に生きる決意をされたことを熱く語られます。そのころに、雅休先生にめぐり合い、その人間的な魅力に引かれ、新しい書の誕生を夢見て入門されたとのことです。

私自身も高崎女子高生の時、邑水先生の講習を初めて受けました。先生は、六朝の書、龍門造像記の線は魂の叫びがあると説かれ、さらに先生の運筆される書線の美しさと力強さ、堂々とした風格のある姿が今も目に焼きついています。その邑水先生と同門の山本車水先生から、邑水先生への入門を推荐られ、私は大学一年の秋、吉祥寺の先生のお宅を訪れました。

大学では級友の技量の高さに圧倒されていました。そんな折に先生のお宅に通い始め、書の「真正」を求める厳しい指導が始まりました。

21世紀の書

—私の主張—

現代詩文書（四）

小池蹊舟

親しみやすい書

—童謡を唄い、童心に還る—

〈心の故郷〉

白扇書道会では、毎年「日本童謡の書展」を開催しています。

「童謡は心の故郷である。素直で明るく伸び伸びとした心が大切である。初心忘るべからず。幾つになつてもこのよくな書を書きたい。」故種谷扇舟先生のこの志を継いで、幼児から百歳近い方まで作品を寄せられています。

料紙が砂漠のような色合いでしたので、「月の沙漠」を隊商の列をイメージして、遠近感と広がりを意識して書いてみました。硬筆と異なり、毛筆はその柔軟性を生かすことで、墨量や筆使いにより細やかな情感を表現できる楽しさがあると思います。

童謡には、美しい日本の四季の風景が織り込まれ、家族の語らいや思いが込められ、短い詞とメロディーの中に心安らぐ樂しさがあります。

（絵を画く様に歌を唄う様に）

今回の掲載作品は、第28回童謡の書展に出品したもののです。



小池蹊舟書

「月の沙漠」

平成30年度 新審査会員作品

今閔 心華（運）・新谷 嶽泉（か）・金野 翠苑（現）・阿部 邑里（前）

今閔心華
(千葉)

「臨太子刷護經」



佛在摩闍祇者聞於山中時於子二百比丘
苦薩等二十人復漢安優婆夷諸人至其釋
及先大數人及鬼神龍首俱舍阿閻世王
太子名為刷護使因中與摩訶長者子五百
人各持首等蓋出摩闍祇相隨出至佛所
持黃金華蓋上佛已却又手持頭面着地
為拂拂禮言皆又半仰所觸世王太子刷
太子刷護使坐於菩提樹下滿三華全體持菩薩

飯高先生に教わりたくて姉崎高校入学以来、臨書倣書創作の本格学書と紺紙金銀泥細楷の技をご指導頂き、肉筆が揮見出来る古写経の全臨で創作に備えています。審査会員昇格の感謝と書は心やれば出来る継続は力なりを胸に、幅広く精進努力して参ります。

(心華)



金野翠苑
(岩手)

「一穂の詩より」

この度の審査会員昇格、大変光栄に存じます。ご指導下さった先生方、書友の皆様に心より感謝申し上げます。一穂の詩のイメージを半紙に、どこまで表現出来るか、書いてみました。昇格に恥じない様、精進いたしました。

(翠苑)



阿部邑里
(宮城)

「生きる」

この度は審査会員にご推挙いただき感謝の念に堪えません。ありがとうございました。

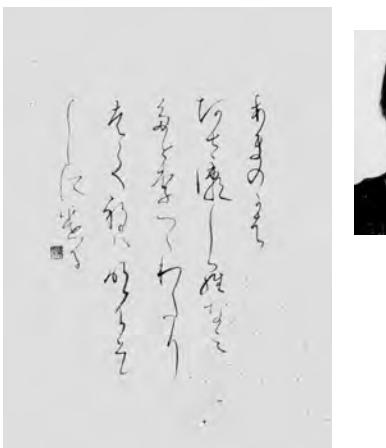
今回のテーマは『自然の恵み』。確かに自然の猛威は脅威ではあるが、人も動植物も皆大気や大地から沢山の恵みを受け生命を維持している。その恵みに感謝しつつ、支えられて生きる姿を表現しました。

(邑里)



新谷嶽泉
(神奈川)

「天の川…」



子育てのブランクから再出発

この年月の遅れはあまりにも大きくなり前進あるのみと常々自分に言いきかせている現状です。

私にとって師の書作品にふれる喜びは何ものにもかえがたい安らぎのひと時です。

(嶽泉)

集王聖教序

東晉 王羲之 ①
(唐・672年集字)

特別研究部臨書課題

II (毎日展公募サイズ以内・縦横自由)

当該古典の左記掲載部分以外も可。

〔解説〕「集字聖教序」また碑頭に七仏を彫っているところから「七仏聖教序」ともいう。玄奘法師(602~664、唐代の僧)は、インドで仏教を研究し、多くの經典を持ち帰り漢訳した。その功績をたたえるために、唐の太宗皇帝が「聖教序」を、皇太子(後の高宗)が「述聖記」を作った。これらと玄奘が漢訳

した般若心経などが刻された碑である。その書は、長安の僧懷仁(伝記不詳)が宮中に伝わる王羲之の真跡行書から一字ずつ集字したものである。縦348×横113cm。碑文は30行、毎行80数字、全文1940字から成る。現在、西安碑林に所蔵されている。

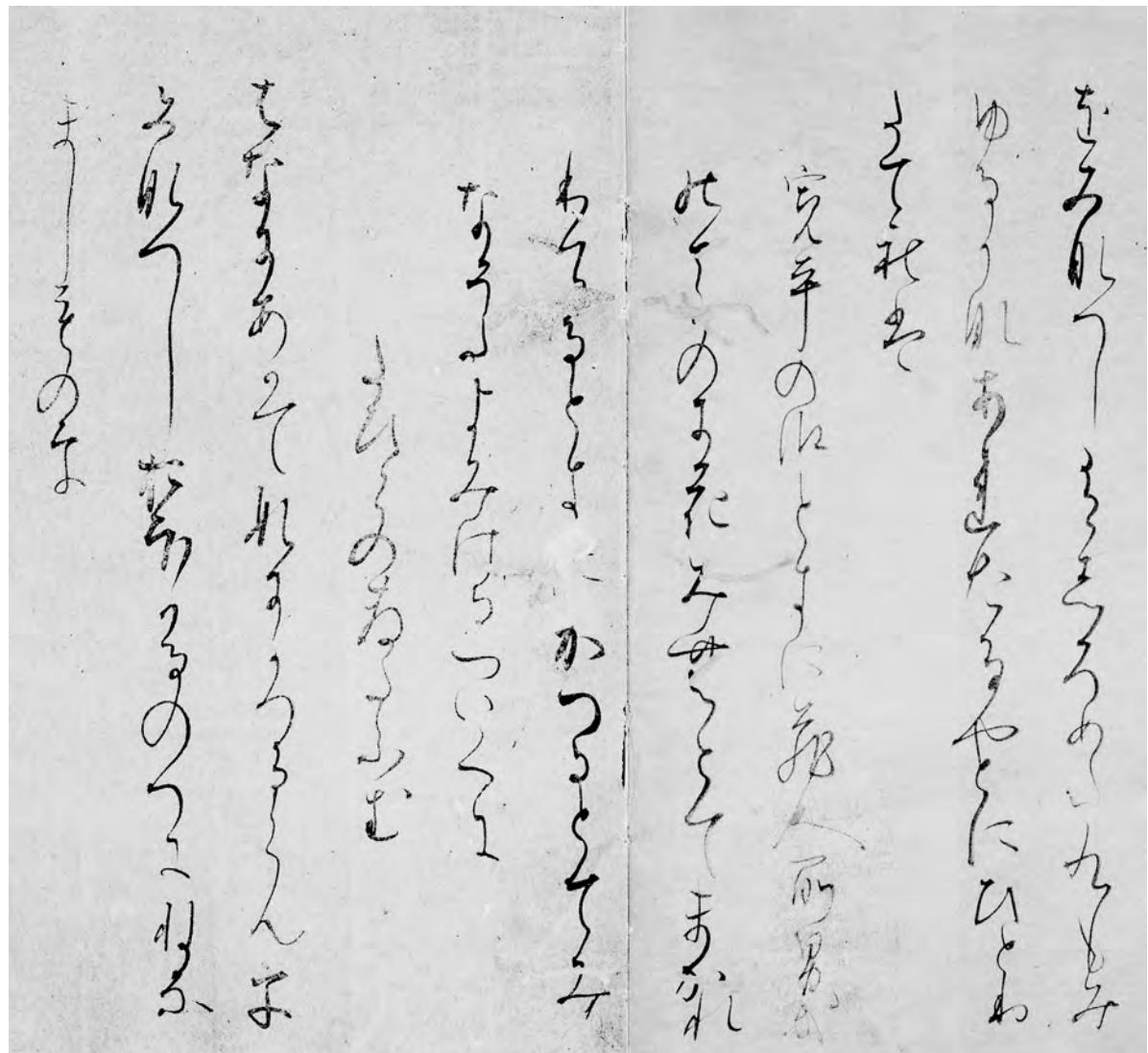
(編集部)



(掲載図版72%に縮小)

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨(押印のみも可)

蓋聞。二儀有像。顯覆載以含生。四時無形。潛寒暑以化物。是以窺天鑑地。庸愚皆識其端。明陰洞陽。賢哲究其數。然而天地苞乎陰陽。而易識。



(個人蔵)

関戸本古今和歌集（云藤原行成筆）①

古筆鑑賞

172

（よみ）
をみなへしうしろめたくもみ
ゆるかなあれたるやどにひとり
たればはなにあかでひらのさだふむ
りけるときにはへるとてみ
なうたよみけるひらのさだふむ
はなにあかでひらのさだふむ
ましもものをおほかるのべにねな

（解説）

関戸本古今和歌集は、「古今和歌集」の写本で、もとは上下二巻の綴葉装の冊子本であった。名古屋の素封家、関戸家に零本(27紙)が伝存する。これは、加賀前田家の伝来で、明治15年(1882)に関戸家に入り、以来、この名で呼ばれる。現在では、関戸家の零本のほか、断簡として諸家(徳川美術館、嵐山記念館、五島美術館他)に分蔵されている。関戸本古今和歌集は、数色の美しく染色された料紙が豪華に使われていることなどから、当時の貴族の調度手本か贈答品であったとされている。

(編集部)

※古筆は原寸(以上も可)で臨書しましょ
う。
※掲載図版は70%に縮小。

※落款を必ず入れる。署名、もしくは○○臨(押印のみも可)

かな研究部
臨書課題

(半紙普通判(料紙可)・縦長に使用)
別紙を裁断して貼付も可。半機紙は半紙サイズに切って使用のこと。
上記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。(全篇も可)

特別研究部
臨書課題

(毎日展公募サイズ以内・縦横自由)
上記の掲載以外も可。

習い方解説 (四)

小竹石雲

心月孤圓
(碧巖錄)



書体=自由

- ねばりのある渋い行書を何紹基に求めてみた。
- 長峰で力まずねばりのある線を引くためには筆管は強く握りしめないように。
- 抑揚をつけながらの運筆で作品に明るさをもたらせるように心がけた。
- 最後まで書ききることで作品に充実感がうまれてくる。

心月孤圓 よみ (心月孤圓)

枯木生花

(宋代「統博物志」より)

（こぼくはなをしょうす）
枯れ木に再び花が咲くこと
から、転じて、非常な困難の
さなかに活路を得るたとえ。

六朝の造像記の用筆を想起し筆
を執った。外連味のない一気呵成
な筆致、方筆による重厚かつ筆力
雄渾な運筆を目指した。方筆は筆
勢が顯わになるが、内側にも充実
した筆力を満たしたい。

造像記に見られる角張り過ぎる
起・收筆は、石彫職人の誇張も多
分に含まれている。毛筆で方勢を
成す際は、形に意を注ぎながらも
生命力ある線条を第一に置きたい。

起筆は鋭利な蔵峰で入筆すると、
筆力が外に逃げない。蔵峰にも、
いろんなやり方がある。それと、
くれぐれも筆毛の腹で擦るような
運筆だけはいさめたい。如何なる
書体、書風を書く場合も、筆力は
鋒の先端に送り込むことが肝要。



習い方解説 (四)

奥田瑞舟

かぜふ 風吹けば 蓮の浮うき葉に玉こえて
涼しくなりぬ 蟻の声

(源俊頼)

夕方の風が吹くと、池に浮いた蓮の葉の上を露の玉が走りこぼれて、涼しくなった。蜩の声も涼しげに聞こえる。

掲載が7月号なので、先ず時期

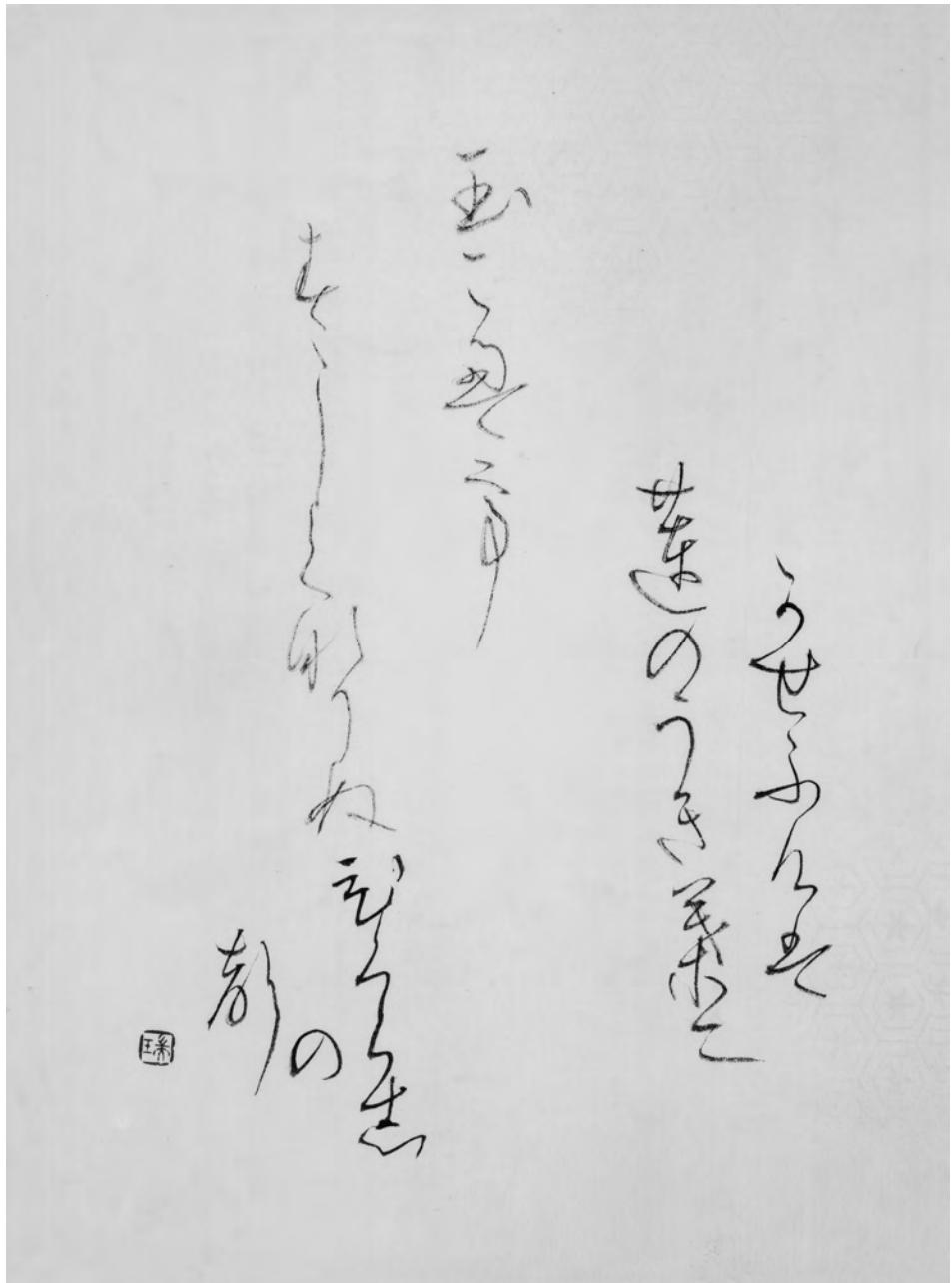
的な歌を選びました。蜩・蓮の浮葉・風・涼と夏の情景が盛り込まれた歌です。すっきりと仕上げてください。

かなの散らし書きに古筆の香りをと言われます。今勉強しているもの、自分の好きな古典をまぜて創作してみましょう。○○風と一貫した気分のものに取り込めば成功です。
漸新な構成もありますが、これを活かす線が大切です。楽で自然な運筆は美しく感じます。特に誤字にならないように注意してください。

よみ方 風(可せ)吹(ふ)け(介)は(盤)蓮の浮(う)き葉に(一)玉こえ(盈)て(亭)

涼(春)しくな(那)りぬ蜩(飛くら志)の声

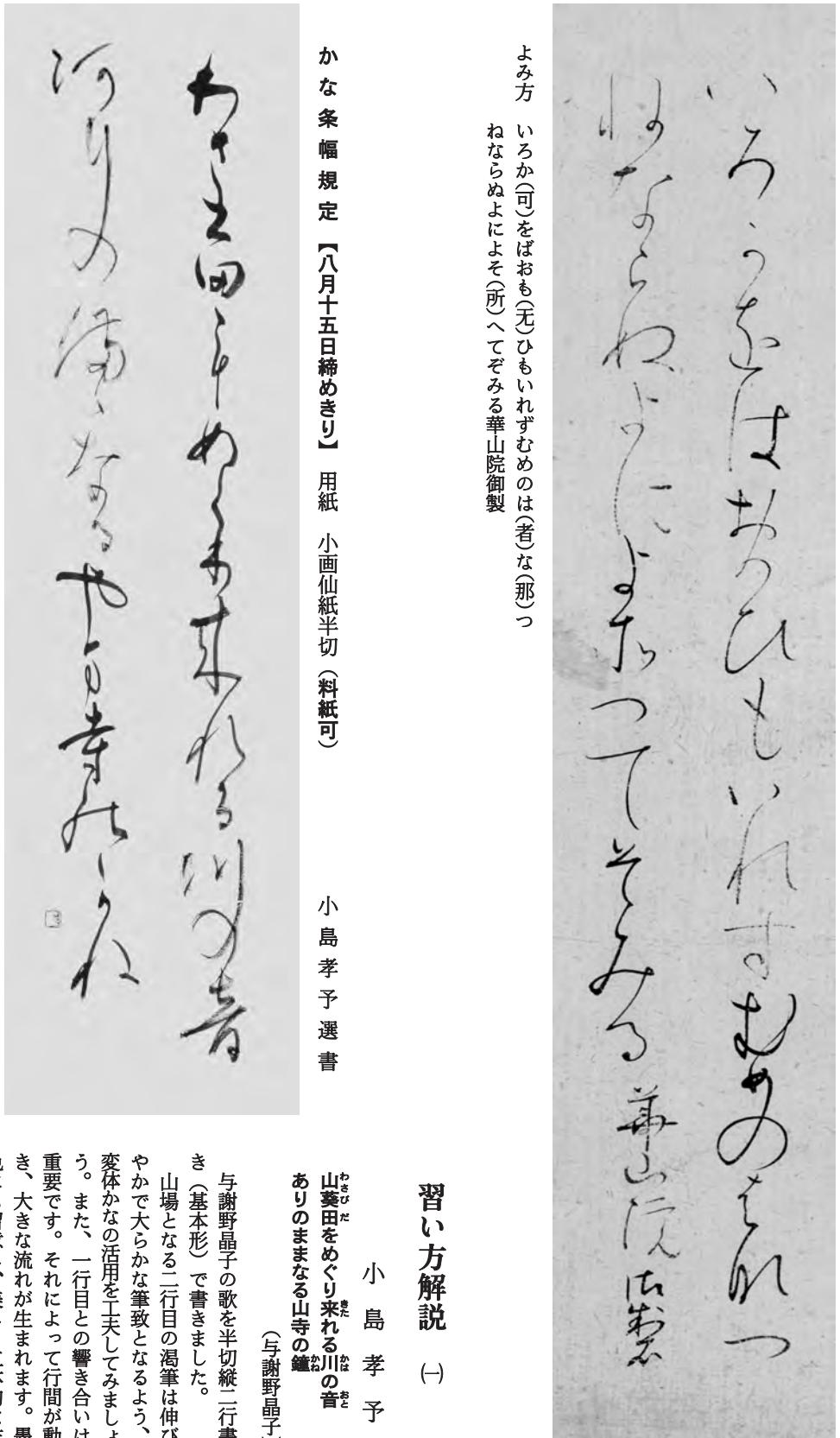
創作



かな規定 秀級以下 【八月十五日締めきり】 用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$ (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

掲載写真的和歌を臨書する。または部分(2字以上の連綿)を臨書する。

粘葉本和漢朗詠集
(掲載写真拡大111%)



習い方解説 (一)

小島孝予

かな条幅規定【八月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

小島孝予選書

山葵田をめぐり来れる川の音
ありのままなる山寺の鐘

(与謝野晶子)

与謝野晶子の歌を半切縦二行書き(基本形)で書きました。

山場となる二行目の渴筆は伸びやかで大らかな筆致となるよう、字体からの活用を工夫してみましょう。また、一行目との響き合いは重要です。それによって行間が動き、大きな流れが生まれます。墨色にも留意し、美しく立体的な作品に仕上げて下さい。

*タテ形式に限る

創作

よみ方 山葵(わさび)田を(乎)めぐ(久)り(利)来れる川の音
あ(阿)りのまま(満々)なる山(や万)寺の(能)鐘(可ね)

漢字 条幅 規定 初段以上 【八月十五日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

種谷 萬城選書

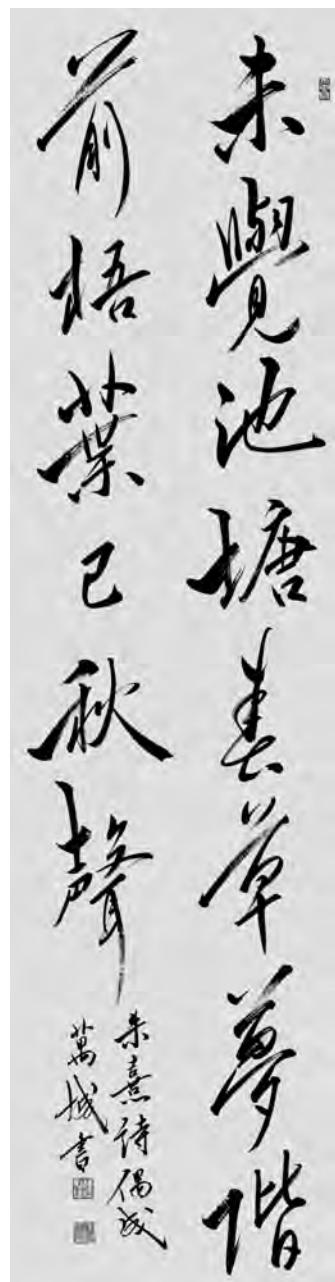
種谷 萬城選書

習い方解説 (四)

種谷 萬城

今月は行書で、宋の米芾を倣書しました。蘇東坡、黃庭堅と共に宋の三大家と称される米芾は、性格豊かな才人です。爽やかで、表情に富んだ線を生み出す巧妙な書法に魅せられます。自由奔放に筆が舞い、大小、太細、疎密、連速が变幻自在で、創作に生かしたい技法が盛り沢山です。臨書と倣書で、創作の幅を広げて下さい。

*タテ形式に限る



書体=自由

漢字 条幅 規定 秀級以下 【八月十五日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

川島舟錦選書

習い方解説 (四)

川島舟錦



書体=自由

孤雲獨去闊
(孤雲独り去つて閑なり)
(李白の詩より)

もう7月。日々が、あわただしく過ぎ去ることに不安さえ感じる間もない。「孤雲獨去闊」筆を運ぶ間だけでも閑けさを楽しんでいただけますように…。
一画目から二画目へ、二画目から三画目へ…さらに、一字目から二字目へ、二字目から三字目へと、氣脈や筆脈を意識しながら書き進めてみましょう。
墨量や墨の濃度、筆庄や運筆の違いによって表現は変化します。用具、用材の種類や使い方を工夫することでも、さまざまな表現が可能になります。

習い方解説 (四)

大隅 晃 弘

今回は、細字用の万年筆で書写しました。

禪智向内供の鼻と云え巴、池の
尾で知らなイ者はなイ。長さは

五二、寸あつて上唇の上から顎の
下まで下つて、いる。

芥川龍之介「鼻」より 晃弘書

万年筆が「大人の文房具」として扱われる
のは、作家や年配者が使うイメージがあつ
たり、ブランド名が冠の高級品をイメージ
したりするからでしょか。現在では高級
品のみならず、廉価なものや使い捨てのも
の、書写指導に配慮した子ども用のものま
で多様な万年筆が出回り、身近な存在になつ
たように思います。

万年筆と付き合う中で、インクへの拘り
は楽しみのひとつです。様々なブランドか
ら多くの種類が販売されています。染料イ
ンクは発色が良く、色の種類が豊富ですが、
耐水性に乏しく色褪せしやすいため、長期
保管の目的としては向いていません。対し
て、顔料インクは色のバリエーションが少
なく、黒や濃紺系が大半を占めますが、耐
水性・耐光性に優れるため、長期保管を目
的とした重要書類の書写に適しています。
また、ペン先の太さ(形状)も極細から
極太まであり、好みや用途に応じて選ぶと
良いでしょ。極太の万年筆を少々寝かせ、
紙面との筆触を確かめながら、文人気取り
で文章を綴るのは心地良いものです。

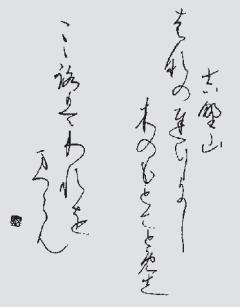
用紙=はがきの大きさ(14×10cm)、白色のもの、黒インク使用のこと (顎=あご) 書体=自由

※落款(自分の名前)を必ず入れる。

今月の

ホープ作品
各部総評 No. 685

かな部 師範 梶田 和子
字形の良さに加え確かな構成力
の生み出す世界に魅了される。古
典美と現代性の共存は普遍性あり。
◎かな部総評 総じて高度な仕上
がり作多く好ましいが、創作への
試みに歩を進めることを希望。変
体がな免の誤字多く残念。(明子評)



かな条幅部 準師 渋谷由美子
参考手本をよく解釈し、筆の表
裏を巧く使う。墨がやゝ薄いのと、
線の甘さが気になるが今後に期待。
◎かな条幅部総評 揭載の手本の
薄い部分(渴筆)は、よみ方を確か
めて把握すること。横物は行間の
間隔のバランスが大切。(洋子評)



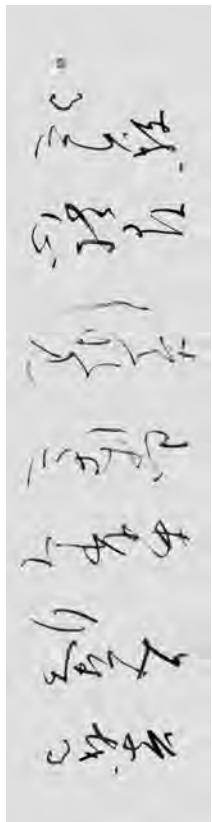
漢字条幅部 師範 高武 玄城
淡々とした無欲さが逆に見る者
の心を打つ。潤渴の心配りによっ
て流れを作り、余白も美しい。



◎漢字条幅部総評 参考手本によ
つて隸書の学習が出来たようだ
(上級)漢碑の名品を改めて臨書
したい。(翠風評)



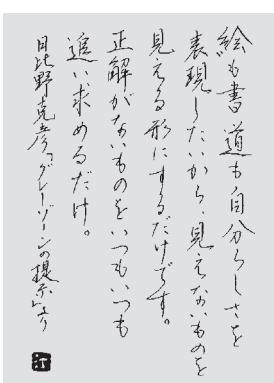
現代詩文書部 特選 岩崎 陽光
思い切りの良い構成は今日生れ
たものではなく、日常の創作意欲
と探究心の賜。努力が実を結ぶ。
◎現代詩文書部総評 特選作品は
表現力が豊かで感動した。押印無
い人はランクが落ちる。(梓江評)



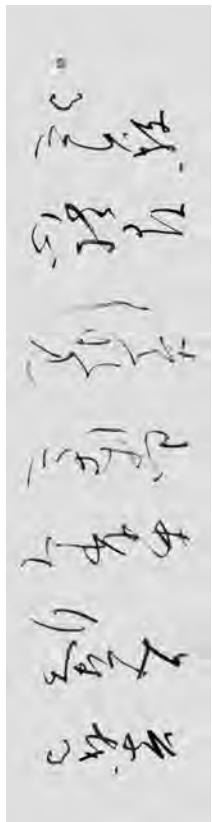
前衛書部 特選 堀 あつ子
重厚な運筆と構成だが、線に潤
渴の変化を組み込んで躍动感を表
現している。
◎前衛書部総評 線質の冴えは運
筆のリズム、墨色の工夫や筆・紙
などの選択を考慮に。(蓮紅評)



ペン字部 師範 竹清 汀琴
切れ味のあるシャープな線質で
充実した作となっている。落款は
名前まで入れるとさらによい。
◎ペン字部総評 充実した作品が
多く構成もよくまとまっている。
落款の書き方、位置一考を。(仙草評)



漢字部 師範 鷺山 美梢
安定した運筆で骨格のしっかり
した草書表現。紙面構成もラン
スよくまとまっている。
◎漢字部総評 上級五文字表現は
やや小ぶりにまとまる作多し。紙
面展開に工夫がほしい。下級楷書
上部少画部に苦労あり。(大雲評)



今月の

特別研究部優秀作品(特選)

かな (高崎) 北村欣子



北村欣子書

漢字 (恵雅)

板橋雅邦



「扶過断橋」

◆二本連筆で大きく拡がる行

◆躍動感あふれる線質と力強

草表現。柔らかな渴筆が魅力
く自在な運筆が魅力。文字の
的。やや割れた線がうるさく
感じる。

く。ダイナミックな運筆で効
立ち、存在感のある作品となっ
た。

(大雲評)

(紅瑠評)

(東舟評)

(和楓評)

(東舟評)

53×175cm

「高砂の」

◆筆鋒の利いた鋭い運筆に魅力を感じる。細線で2×6尺に二首書き。構成のセンスよく余白美しい。

(東舟評)

◆和歌一首を爽快な筆捌きで横展開する。ややひきしめた線質が緊張感を醸し出し、軽快さも生み出す。

(和楓評)

◆筆端の切れ味が心地良い。中心

部からの渴筆が大きな動きを展開し、最後の余白が美しい余韻。

(紅瑠評)

前衛書 (容洲社) 阿部邑里



阿部邑里書

60×180cm

「心象」

◆弧を描く美しい飛沫が造形の広がりを生み、たっぷりとった中央の余白も効果的。墨色もよく、爽快でモダンな趣。

(大雲評)

◆瞬発するリズムが紙面に跳躍し、動きある表情を醸し出して妙。書き出しの左側にもう少し余裕あれば。

(紅瑠評)

(和楓評)

◆左右いっぱいに、はち切れんばかりに活用。中程の広い余白と、温かみある墨色の飛沫が相俟つて生きている。

(東舟評)

◆濃墨で沈着した線と、大胆な動きの渴筆が相まって二行のバランスが良い。立体感溢れる作となった。「扶」が魅的。

(和楓評)

(東舟評)

◆極端に変わる文字の大小、潤渴等を取り混ぜ明るく爽やか。ダイナミックな運筆で効果的。

(紅瑠評)

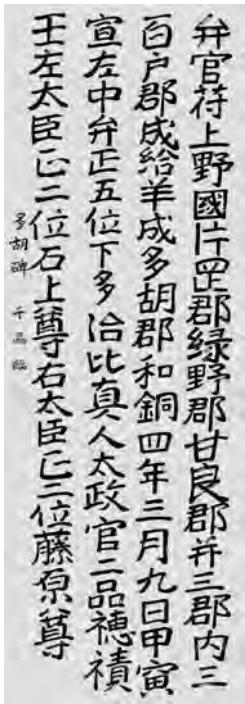
(東舟評)

(和楓評)

臨書

(紅瑤)

木暮千晶



木暮千晶臨

「多胡碑」

弁官符上野國下平郡綠野郡甘良郡并三郡内三百戶郡成給羊成多胡郡和銅四年三月九日甲寅宣左中弁正五位下多治比真人太政官二品禡積王左大臣正二位石上尊右大臣正二位藤原尊

180×60cm

◆原碑を2×6尺に全臨した全体像にゆつたりと広がる暢びやかさを感じず。しつとりした線質を買う。

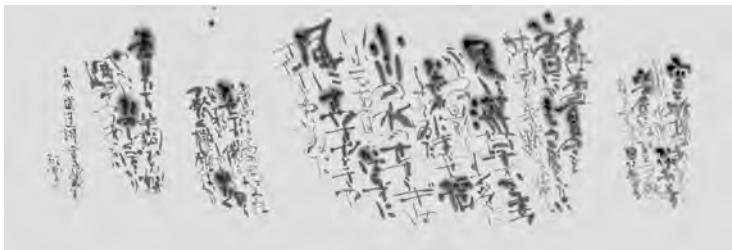
◆多胡碑の線質は多彩な捉え方がある中で、円筆で大らかな雰囲気が漂う臨書作。さらに線の深みと強さの鍛錬を！
(紅瑠評)

◆多胡碑の特徴を良く捉えて、氣宇大。じっくりと丁寧にまとめ、明るい佳作。取り組み方に敬服。

(東舟評)

現代詩文書

(玄穹) 千葉紅雪



60×180cm

「立原道造詩『夏花の歌』より」

◆独特的青淡墨の潤滑を生かし、全体構成も大小の集団で紙面に変化をもたらしている。手練れの作。(大雲評)

◆潤筆の滲みと細い線が程良く
自然に配字され、ブロックのハー
モニーが心地良く、横展開が素
晴らしい。

◆構成や墨の濃淡などの変化を巧妙に盛り込み、紙面全体を表情豊かにまとめあげた作。長年めでてゐる。

◆左上から右下への躍動した線が美しく、力強さを感じる。特に渴筆が動きと明快さを表現している。(和楓評)

◆濃墨で重厚感ある筆意に惹かれる。スピード感も伴い、下部への誘いを見せる。墨量の対比もよい。

◆濃墨によるエネルギー感、筆致と潤滑の変化が魅力。空間処理が巧みで余白も美しく、紙面全体に緊張感が漲っている。

◆やや厚手の画仙紙に濃墨による潤渴、切り込むようなスピード感ある運筆で魅せる作。下部やや平板か。
(大雲評)

前衛書
(蓮紅社)
田村紅沙「晃」

田村紅沙
「晃」



180×60cm

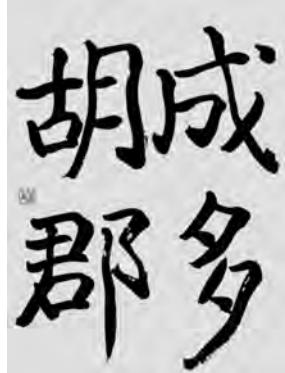
點數品目出

創作の部(43点)	
漢字	— 6点
かな	— 5点
現代	— 13点
篆刻	— 0点
前衛	— 19点
臨書の部(24点)	
漢字	— 22点
かな	— 2点

漢字研究部
(多胡碑)

選評 川島舟錦

今月のホープ作品



田中岳舟



順小里信絢霞
一遥祥代水花

節雄七白る豊
り苑一生琴子苑

遊美雅美楊蒼
山楓悠梢風風

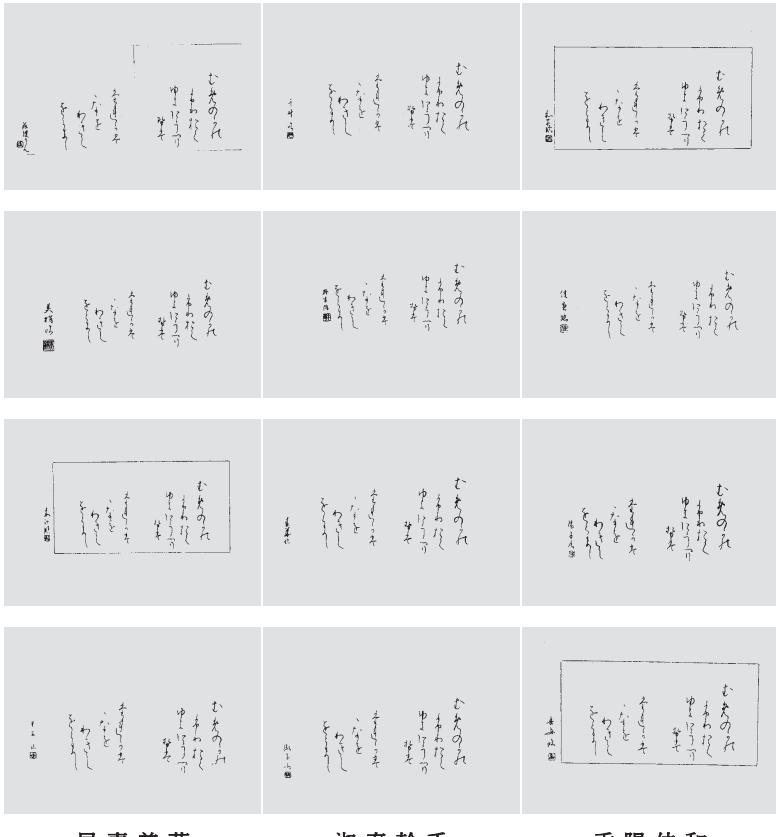
翠紅律風惠梨
雪苑子華泉秀

漢字研究部 特選 田中岳舟
蔵法で、形にとらわれることなく実に伸びやかに表現された「多胡碑」を、力強く、筆をしつかり紙にこませて運筆、日々ろからよく鍛えられた線質は、ゆったりとしている心地よささえ感じさせます。

◎漢字研究部総評

今をさかのぼること44年。どんなにすばらしい碑であるかを熱く力説する教授のこと、

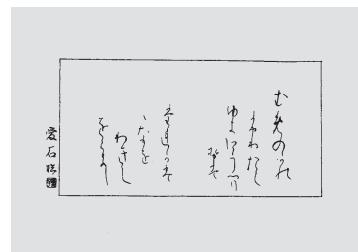
静かなたたずまいの中、笠のある丸みを帯びた石碑に見入ったことを思い出します。それは隸書の面持ちの残る素朴で温かみあふれる楷書体でした。雨の中、傘をさして鑑賞した記憶が残っています。
書を志す方が、必ず臨書する作品ではないからか、特徴のとらえきれない作品も多く見られましたが、「臨書」のいい機会です。



か な 研 究 部
(縊色紙)

選評 庄 司 紅 郷

今月のホープ作品



松 丸 愛 石

かな研究部 特選 松 丸 愛 石
一行目の「むめのかの」をしきりと堂々
と書き、全体を引き締めました。筆をゆっ
くりと進め作品の間をとることが大事で、
見事に特徴を捉えています。

高大耕玉蕙
高嶺雲霧松蕙
誠書光八樹京汐若琇澄正こ白大A白大八有大こ
和游昭生原櫻風蕙韻春蕙こ鶯雲I鶯雲街秋阪だ
高陵

根中田土閨鉛新庄嶋篠紺近久工加金加大遠伊伊礪石石生五會
津林井中口木谷司 田野藤保藤納杉藤藤木藤藤藤日渡川駒十木
惠 風
飛清弘耶芳利翠咏由美遊松智山順紫春翠步志寿千清翠洋萩佳勇
龍香枝衣枝子光帆香子山春美屋子鰐豆陽佳扇子銚耀子花榮介

あ春蓮白生澄上高白上大秀も上天幸童琇竹た蕙 澄潮た 大幕張
か江紅露大春泉陵珠泉阪水く泉瓊扇韻原か書 春音か

本宮本古藤深早丹西中富戸塚田高高砂代猿坂齊齋小黒草木北
吉野田谷本堀部羽山尾田澤部本口橋岡田渡本藤藤林柳刈村
吉瀬由登美理ち香
明津美善清惠蓼恵喜惠藤え代沙雅裕篠箪里靜翠杏見竹順順惠
季持雪子東海清朗子龍子彩子風子子右美流季代華子舟

弘千正富春硯春昌英芳や蒼千大附詢正英千東梓黎樹大正大雲書澄も
舟葉華貴江水汀苑峰蘭ま原葉雪中扁華峰葉向江明眉雪華阪溪游春く

渋渋柴佐佐佐坂齊齊河高國工木吉菊菅川金葛片加鰯香小小山
谷谷田々々々巻藤藤藤田野武峰藤原瀬地野元子 山瀬治川野川
由木木木木か奈 明寺
美愛洋考霧麗早江つ舞惠玄琴香輝彩泰静榮津惠亨日俊翌輝
子華子子子苦苗彩え夢子城翠蘭子雨峰代仙希美風夏亮邊一峯

芳春椿高京明昌琇高華竹玉白玉五調白大琇大前祥も芳土千代選蘭汀翠陵橋漢苑韻陵仙扇川鶯川葉布露雲韻雲橋紫く蘭氣葉雲外

高陽颶高誠椿玉A玉千た椿天清大も樹澄う玉紅大桜清石
崎嶺と翠松I松葉か翠蓮月雲く原春る松蓬拙草月留

特選
松岩後小石大青生橋松梅安中小鶯青近宇飯長須佐苗境松
浦崎峰崎島木方本重津藤里林山木藤田高谷田藤代野丸
美由佳美川川
玉陽良加甘昌葵美紅翠代代星嘉美藤淑春幹子香陽佳和愛
江光景子雨子郷子霞昌子子江楷満子葉生絽舟子恵子石

正蘭大白高誠澄水大大京松N松
華鼎阪鶯真和春海拙阪橋村H村 幸無高椿桜宗硯 こ澄椿た
佳 扇門真翠草苑水 だ春翠か

菊川小乙梅鶴植飯荒天東阿赤青
地崎野幡山澤泉木羽久川木原
優萩智久琴紅洋孫蕙花瓈玉
子平善子舟雨子功子子華枝
作 60 章

白正春白た竜玉や花八岩正蘭千書あ高洞游もさ
瑞華江雲か皇川ま徳百沼華鳴葉游か峰畫水くつ
如治東黎清日目田伯明目

六
通
編鶯山山大
實山本中和
紗由
智か真和紀
子り江紀子
日大大惠江梅今今伊伊市石石石石石飯安荒新明青
塚木南口木村井東藤川崎川川川井島藤川井石木
真知多
由教龍茉箆貴花京悅紫正津枝晴桂玲律楊裕藤麗松
美善春東悠山泉枝子子泉子子洞華子子風泉雪子目

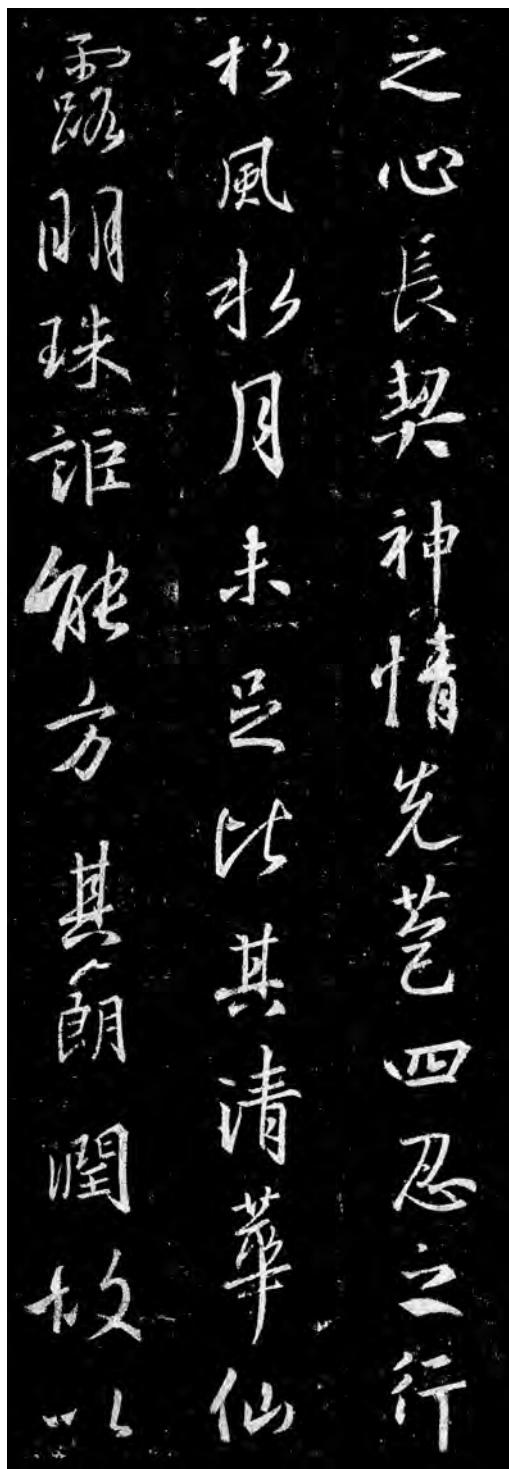
大京蘭東水青遊澄泉上一雲小千春た祥大千や春玉高竜玉白祥正富高
橋鼎向海蓮雲春会泉葦溪映葉汀か紫雲葉ま汀川陵泉川露紫華貴崎

春林昌根沼西浪永中仲豊戸渡穂教種田多高高景関春杉杉菅神
石岡 山岸田澤川田村村西崎村子泉賀田谷玉田原野水根原田浦原宮
と シ 潤 久 美
聰雅芝み奎彩秋時ゲ一游 博紀雪美雅森哲美貞章龍代慶睦幸昌玉
春子香子心峰花子子琴溪勝舟子壇惠雲城子子治宝子子子枝

かな研究部成績集

[特別昇級試験臨書課題]

*臨書課題は全て、写真掲載部分の中から規定の文字数を臨書する。掲載以外は違反となります。



集王聖教序 (行書)

漢字部

第二種 半紙に写真掲載の中から12文字を臨書



通理之名。卓爾不群之目。固已殊異。

之心。長契神情。先芑四忍二行。
松風水月。未足比其清華。仙露明珠。
詎能方其朗潤。故以

有玄奘法師者法門之領袖也幼懷貞敏早悟三空之心長契神情先苞四忍之行

有玄奘法師者。法門之領袖也。幼懷貞敏。早悟三空之心。長契神情。先苞四忍之行。

二玄但增新慨頃之經多激
定三十多年中之此也之也

二書。但增歎慨。頃積雪凝寒。五十年中所無。想頃如。

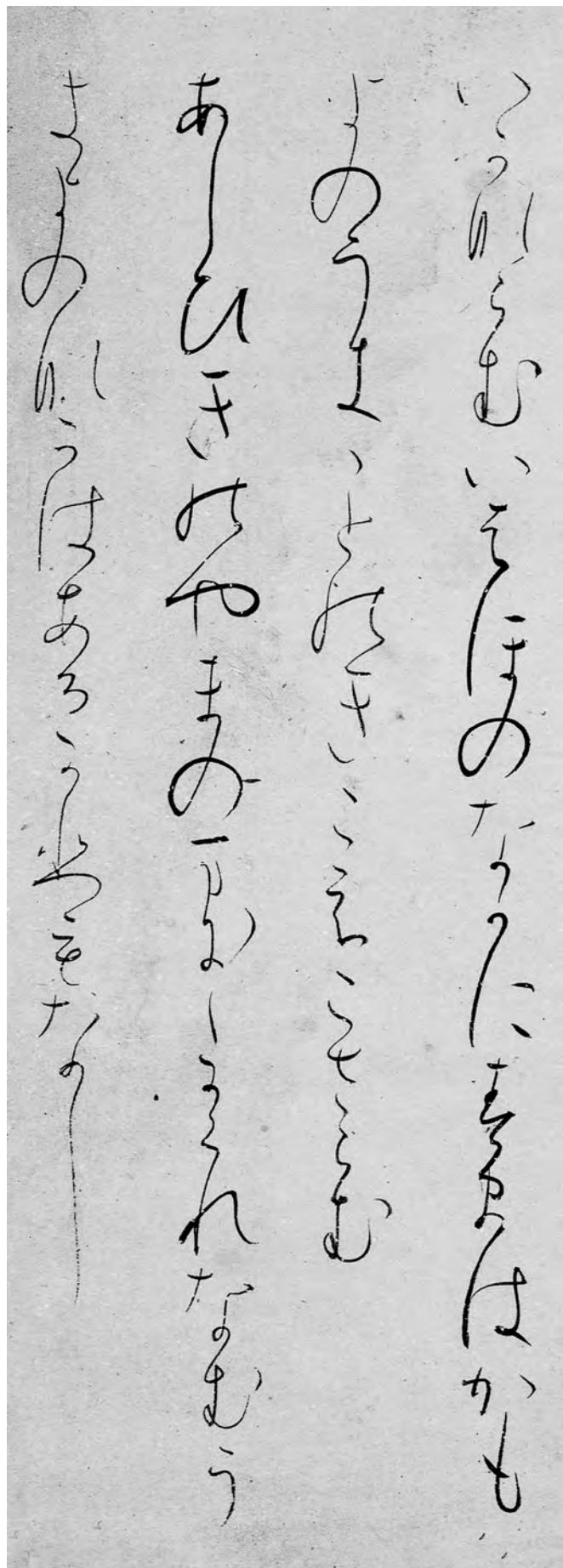
顏勤礼碑(楷書)

漢字条幅部

第二種 半切に写真掲載の中から14文字を臨書



學業。顏氏爲優。其後職位。溫氏爲盛。事具唐史。



いかならむいはほのなかにすまばかもよのうきことのきこえござらむ
あしひきのやまのまにくかくれなむうきよのなかはあるかひもなし

※図版は原寸

徒九八年農
つくばねのこのもかのもに影/はあれどきみがみかげに/ますかげはなし
者年能農
つくばねのみねのもみぢばおちつ/もりしるもしらぬもなべて/かなしも

はれのひのまに景
うらまく見えます、
さあどうぞ

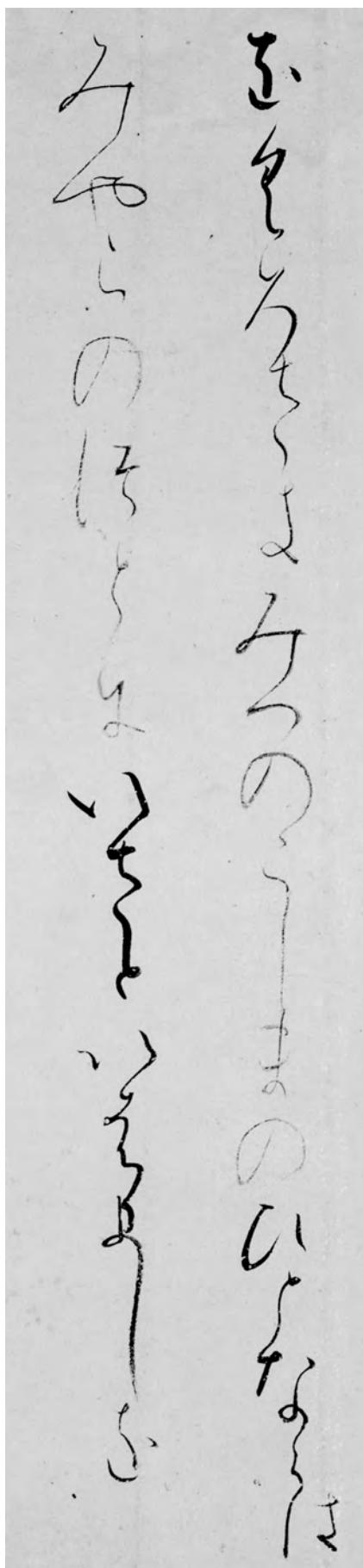
※図版は原寸

高野切 第一種

かな条幅部

第三種

半切に写真掲載の和歌を書く（料紙可）



をぐろさきみつのこじまのひとならば／みやこのつといはましを
具支 徒示 者

※図版は原寸

ご注意!!

名前のかき方

- ◎どの部も落款を入れる。
- ・創作は○○書（かな部・かな条幅部は印のみ可）と書く。
- ・臨書は○○臨と書く。

書道芸術院秋季展公募出品要項

— 審査会員候補公募 —

書道芸術院秋季展において審査会員候補の作品を公募いたします。今回の展覧会は書道芸術院の新しい表現への挑戦と新人育成のため広く作品を募集し、優秀な作品には秋季菊花賞、秋季俊英賞を授与し審査会員への登竜門とすることが目的です。ふるってご参加下さるようご案内申し上げます。

記

- 1、主 催 公益財団法人書道芸術院
2、後 援 毎日新聞社
3、会 期 平成30年10月2日(火)～10月7日(日) 10時～6時(最終日5時)
4、会 場 セントラルミュージアム銀座(銀座3丁目9-11、紙パルプ会館5階)

審査会員候補公募出品規定

(1)作品寸法

毎日公募サイズ(仕上り寸法、縦横自由)	
A	182cm(6尺)×61cm(2尺)
B	152cm(5尺)×73cm(2.4尺)
C	121cm(4尺)×91cm(3尺)
D	105cm(3.46尺)×105cm(3.46尺)

(2)作品締切

平成30年8月10日(金) 院事務所着(厳守)

※まくり作品と出品票をそろえること

(3)募集作品

所属部門の作品、2点まで出品可

(4)審査選考料

2点まで 5,000円(1点の場合でも 5,000円)

(5)褒 賞

* 優秀な作品に秋季菊花賞、秋季俊英賞を与え、表装の上会場に陳列する

* 秋季菊花賞は本展の白雪紅梅賞と同格、秋季俊英賞は本展の俊英賞と同格とし審査会員への昇格点数とする

(6)出 品 料

入賞の場合には出品料として3万円を納入する

(7)出 品 票

別添出品票を切らずに作品右上にクリップで添付する(作品ごとに添付)



(8)そ の 他

入賞展示作品の表装料は各自負担

* 整理の都合上、院で一括依頼(貸額)、表具料は表具店より各個人へ直接請求

秋季展役員作品

秋季展には公募作品のほか役員作品として下記の作品の展示します

公益財団役員・審査会員選抜作家

公益財団法人役員、書道芸術院展役員を中心として、評論家の目としてノミネートされた作家、春華賞候補の新進気鋭作家並びに本年度審査会員候補より審査会員に昇格する作家より選抜し発表します。

『書道芸術院の書・漢字』展 会期 平成30年10月2日(火)～10月7日(日) 会場 アートサロン毎日

* 書道芸術院の活性化と、各総局支局、各社中のレベル向上を目的に、今回は漢字部審査会員から選抜し、アートサロン毎日に展示する。来年度は、『書道芸術院の書・かな、篆刻・刻字、前衛書』展再来年度は、『書道芸術院の書・現代詩文書』展を計画している。